

4 教育研究の組織

進捗状況報告

2009年4月に予定される教育学部開設（2008年度に設置申請）に伴い、同学部内に臨床教育学科が設置されることを前提にして、文学部総合心理科学科の臨床教育学専修は、その役割が教育学部に移されることとなった。文学部に残る心理学専修と教育心理学専修の2専修については、これらを一体化して強化を図り、2009年4月からは、総合心理科学科心理科学専修のみの1学科1専修体制へと再編する予定である。教育学部への臨床教育学専修の実質的な分離統合は、文学部にとって想定外の展開であったため、2007年度に予定していた学科再編の総点検を通じたカリキュラムの見直しは、2007年度は必要最小限のものに留めることとし、全体にまたがる改革は2008年度を期すこととした。総合心理科学科の強化再編は、組織・カリキュラムの全体に及ぶため、総合心理科学科会議の度重なる検討を踏まえた提案と、学部委員会における高次の判断を通じて、2007年度末には「人と環境・人と人・人とモノ」の3つの研究領域にまたがる、総合心理科学科再編案が教授会で承認されることとなり、あわせて教育学部への移籍教員3名に見合う人数の心理科学分野の教員の導入人事を進めることとなった。

文学研究科では、2007年4月、従来の10専攻からなる組織を3専攻14領域（後期課程は13領域）に改編した。2003年4月の文学部改組の設置完成を踏まえた改革であるが、2009年4月に教育学研究科が教育学部と同時設置される見込みであることから、学部と同様に総合心理科学専攻から臨床教育学領域を分離するための検討を、総合心理科学専攻会議と大学院問題検討委員会を通じて行った。その結果、2009年度からは、総合心理科学専攻は心理科学領域と学校教育学領域の2領域（ただし、学校教育学領域は前期課程のみ）をもって構成することを、2007年度末の文学研究科委員会で決定した。なお、臨床教育学領域の学生は、その全員の承諾のもとに、2009年4月から教育学研究科に移籍することとなった。

学校教育学領域の最終的な帰属については、将来の教育学研究科への分離統合を見通しながら、当該領域、文学研究科、教育学研究科、学長府の4者にまたがる慎重な協議を開始する必要が認識されている。

大阪梅田キャンパス（サテライトキャンパス）の文学研究科の利用については、総合心理科学専攻学校教育学領域による実績（4名）が重ねられており、その他にも、英米文学英語学領域による集中講義の利用があったことを含めて、当初の個別目標は達成されたものと考えられる。

学内第三者評価

外部的な要因による学科再編成を含めて、カリキュラム委員会の役割が重要性を増していると思われる。同委員会が有効に機能することによって、文学部教育の優れた取り組みである「学部全体の教育」の重視が、改組完成時の総点検の中でいっそう定着することや、今後進められる総合心理科学科の再編が専修内での調整を越えた文学部全体の教育の中で大きな意味を持った改革になることを期待したい。

なお、学外委員からは以下の意見があった。

2009年4月に教育学部が開設されることに伴い、総合心理科学科では、「人と環境、人と人、人とモノ」の3研究領域にまたがる学科再編が決定され、また、文学研究科総合心理科学専攻では、臨床教育学領域を分離するとともに学校教育学領域の最終的な帰属の検討が進められている。これを機会に、他大学に比較して特徴がある優れた学科、専攻が整備されることが期待される。